

三つの大きな柱（理念）

- 1 すべての人の命と生活を「ささえます」
- 2 とともに生きる社会を「めざします」
- 3 これらを私たちの使命として「はたします」



外来診療のご案内

	月	火	水	木	金
午前 9:00 ～ 12:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>整形外科(栗田)</li> <li>小児科(菱川) ※9:15～</li> <li>児童精神科(野邑)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児科(橋本)</li> <li>皮膚科(櫻井)</li> <li>児童精神科(山本)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整形外科(栗田)</li> <li>小児科(平岩)</li> <li>児童精神科(加藤)</li> <li>眼科(岩味) &lt;第2・4&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハ科(岡川) ※9:30～</li> <li>耳鼻科(別府) ※9:45～</li> <li>発達外来(安井)</li> <li>小児科(横井) &lt;第1・3・5&gt;</li> <li>児童精神科(朝本) &lt;第2・4&gt;</li> <li>歯科(岡本) &lt;第1・3・5&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整形外科(萩野)</li> <li>小児科(安井) &lt;第1・2・4・5&gt;</li> </ul>
午後 1:30 ～ 5:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>耳鼻咽喉科(別府) ※13:45～</li> <li>児童精神科(野邑)</li> <li>内科(西村) *循環器</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>小児科(麻生) ※14:00～ &lt;第1&gt;</li> <li>小児発達外来(安井) &lt;第2,3,4,5&gt;</li> <li>児童精神科(加藤)</li> <li>泌尿器科(斎藤) &lt;第2 16:00～&gt;</li> <li>&lt;第4 13:30～&gt;</li> <li>眼科(高井) &lt;第1・3&gt;</li> <li>歯科(林) ※13:45～</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハ科(岡川) ※13:45～</li> <li>歯科(岡本) &lt;第1・3・5&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児外科 &lt;第1/新美&gt; &lt;第3/田中&gt; ※14:00～</li> <li>児童精神科(小川) &lt;第1・2・4・5&gt;</li> <li>構音障害(安井) ※14:00～ &lt;第4&gt;</li> <li>歯科(堀部) ※13:45～</li> </ul>



- 名鉄犬山線 名古屋駅から10分・名鉄「中小田井駅」下車 徒歩約3分。
- 地下鉄鶴舞線 上小田井駅下車 徒歩約13分。
- 一宮方面からは、国道22号を「古城1」で左折、4つ目の信号「中小田井4」を右折し、2つ目の信号を左折してすぐ左側。
- 桶JCT方面からは、東名阪自動車道 山田東インターを降りて約10分。
- 四日市方面からは、東名阪自動車道 平田インターを降りて約5分。

○令和元年9月1日現在の外来診療です。  
○受診を希望される方は、電話で予約してください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
 ☆ ホームページもご覧ください ☆  
 ☆ <http://aoitori-center.com/> ☆  
 ☆ \*過去の「のびやか」も掲載されています。 ☆  
 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

〒452-0822 愛知県名古屋市西区中小田井五丁目89番地  
 電話 (052) 501-4079  
 FAX (052) 501-4085  
 Email [aoitori@bk9.so-net.ne.jp](mailto:aoitori@bk9.so-net.ne.jp)

印刷・折込作業：社会福祉法人 名古屋ライトハウス

# のびやか 71号



## ひまわり東棟 お楽しみ会

今年は、元職員の岡さんのウクレレの生演奏に合わせて車椅子ダンスを楽しみました。利用者さんが楽しみにされている行事です。利用者さんも、職員も、参加されたご家族の方々も笑顔の多い行事になり、あっという間のひと時でした。  
 最後に岡さんのウクレレ演奏に合わせて「上をむいて歩こう」を熱唱しました♪♪



目次：	
表紙	1
整形外科 シリーズ3 「脳性麻痺について」	2～3
地域療育研修会報告	4～5
どんぐり園からのご案内 本の紹介	6
入所部門の取り組み紹介⑥	7
掲示板	8



## 整形外科より③ 脳性麻痺について

センター長 栗田 和洋（整形外科）

痙性というのは、動作の際に必要な以上に強く筋が収縮してしまったり、何もしていなくても筋が緊張して強張ってしまう性質をいいます。この筋の収縮を痙縮といいます。子どもの場合は特徴があります。成長に伴って関節変形が進みます。幼年期では痙縮があっても変形（関節拘縮）は強くありません。多くの場合、成長と共に骨に対する相対的筋短縮が進み、また筋力アップもあり筋が硬くなります。無理して身体を使うことでも変形が進みます。長い経過で強固な、かつ戻しにくい変形になっていきますので、適切な時期に先を見据えた対応が必要です。

古いものから新しいものまで簡単に紹介していきます。

右ページの図は治療体系を説明するためよく用いられます。

縦方向、上は広範な部位に効き、下ほど範囲が狭くなります。横方向、左ほど効果が短期間で、右ほど長期間になります。（かなり大雑把な図ですがご容赦ください）。

いずれの治療も筋を伸ばし痙縮を抑え運動・姿勢能力の改善・発達を促すことを目的とします。左半分は手術を必要とせず、まずはこれらが行われます。

それぞれにつき大切と思うことなどを簡単に記します。

まず左下の枱。ストレッチングで大切なことは、たまに沢山するよりは毎日継続的に行ってください。回数が限られる療育機関でのリハビリテーションのみでなく、自宅や学校でできるだけ頻繁に行うことが肝心です。保護者や先生方の努力頼みのところもあります。やりようによっては関節変形を生じることがあるので、専門家の指導を受けることを勧めます。

装具治療はお子さんにとって辛いと思います。尖足がある多くの児が行っていると思います。夏の暑い時期などは特に辛く根気がいる治療です。立ちやすかったり歩きやすかったりの補助機能もありますが筋短縮予防が見込めます。しかし、積極的に筋を伸ばし関節を柔らかくするならばギプス治療がお勧めです。ストレッチングをずっと行うイメージです。2、3週間から数か月行うことが有効と考えています。

左上の枱です。筋弛緩剤の内服薬です。

全身の筋緊張が高い場合に使われることが多いのですが、そのようなおさんは得てして覚醒レベルが低かったり嚥下や排痰が苦手であったり、眠くなったり唾液が増えないか注意しながら服用する必要があります。様々な種類が開発されており、医師と相談しながら、試しつつ進める必要があります。

ボツリヌス毒素注射療法は痙性麻痺を有する疾患に有効であり、本邦で広く普及しています。少々高価ながら優れた治療法です。緩めたい筋に直接を注入し効果は3か月程となっていますが、脳性麻痺で使用する場合は実際はもう少し短く思います。後のリハビリテーションによってはもっと長く効くと報告されています。筋が緩んでいる間に反対の作用を持つ筋を鍛えることや、運動パターンを変えることが重要なようです。海外では全身麻酔下に注射するそうですが、本邦では子どもであっても無麻酔で注射することが多いようです。限界としては筋の痙縮を過ぎて短縮をきたしている場合などは効果がないとされています。



## 療養介護・医療型障害児入所施設 各棟取り組み紹介⑥ たんぽぽ東棟

たんぽぽ東棟には、現在29名の利用者が生活しています。

たんぽぽ東棟では、毎日の生活を楽しんでもらえるように、散歩や日光浴、シャボン玉、パラシュート遊び、ボーリング大会、ジュース作りなどみんなで楽しむ活動やふれあい体操、マッサージ、買い物散歩などの個別の活動を行っています。また季節ごとに運動会、盆踊り、秋祭り、クリスマス会などの行事を計画しています。

春には近くの公園へ花見に行きました。満開の桜の下で楽しい時間を過ごすことができました。車に乗っての外出では、なばなの里や木の下大サーカス、東山動植物園、トヨタ産業技術記念館に行きました。外に出ることを楽しみにされている方が多く、普段とは違う表情や反応がみられます。外出先での美味しいおやつが何より楽しみです。6月からはプールも始まりました。

普段緊張がある方でも、水の中ではリラックスして良い表情を見せてくれます。



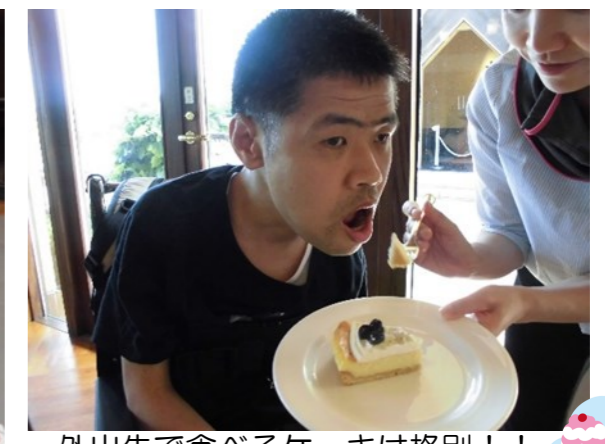
満開の桜の木の下で



東山動植物園 日差しが強い日でした



かっこいい車がたくさん！



外出先で食べるケーキは格別！！



# 医療型児童発達支援センターどんぐり園入園 & おひさま教室（体験教室）のご案内



医療型児童発達支援センターどんぐり園は就学前の肢体不自由・重症心身障害のお子さんが親御さんと一緒に通園する施設です。医療・リハビリテーション・保育・日常生活指導など総合的な療育を行っています。

- ☆つくしクラス（未満児：概ね2歳から～） 週3日
- ☆たけのこクラス（年少児） 週5日
- ☆そらまめクラス（年中・年長児） 週5日
- ★年間行事：遠足（春・秋）・プール療育・家族参観 等
- ★個々のお子さんに応じた給食提供（6段階）をしています。

どんぐり園では入園前のおひさま教室（体験教室）を行っています。お母さん、お父さん、子育てのことについて一緒にお話ししませんか。まずはお気軽にお電話をください。

＜お問い合わせ先＞ どんぐり園  
電話 052-501-4079（内線274）



## 読書コーナー

### 「心をピンにとじこめて」

オリヴァー・ジェファーズ 文と絵 三辺律子 訳



絵本の主人公の女の子は、世界のいろんなことに興味津々。いつもおじいちゃんと一緒に、たくさんの新しい発見に胸を躍らせて。ところが、ある日おじいちゃんが亡くなってしまいます。心細くてたまらなかった女の子は、心を安全な所へしまっておくことに。心をピンにいれて、もうこれで大丈夫。そう思えたのは、最初だけでした…。心を閉ざして、自分を出さなければ傷つくこともない。絶望することもない。ただただ毎日訪れる日々をこなしていくだけ。

でも、そんな生活はどこか気怠く、重い。傷つくことがない代わりに、笑うこともない。そんな彼女を救い出してくれたのは、昔の自分によく似た女の子です。その女の子と昔の自分を重ねて少しずつ明るさを取り戻していきます。最初は長い間ピンにしまっていた心は、思うようには自分では取り出せないけど、その女の子は容易く開けてくれ、心を取り戻します。

辛いことが重なっていた時に会った絵本です。育児や仕事、人間関係に疲れ、心をピンに閉じ込めている大人はたくさんいます。心をピンに入れて自分を守るために笑ってごまかすことがあります。それは必要なことなのだと思います。ただ時には心をピンから出して、めいっぱい笑える。そんな場所や、相手がいることの大切さに気づかされ、明日も頑張ろう。と優しい気持ちになれる絵本でした。

（療育支援課 堀）

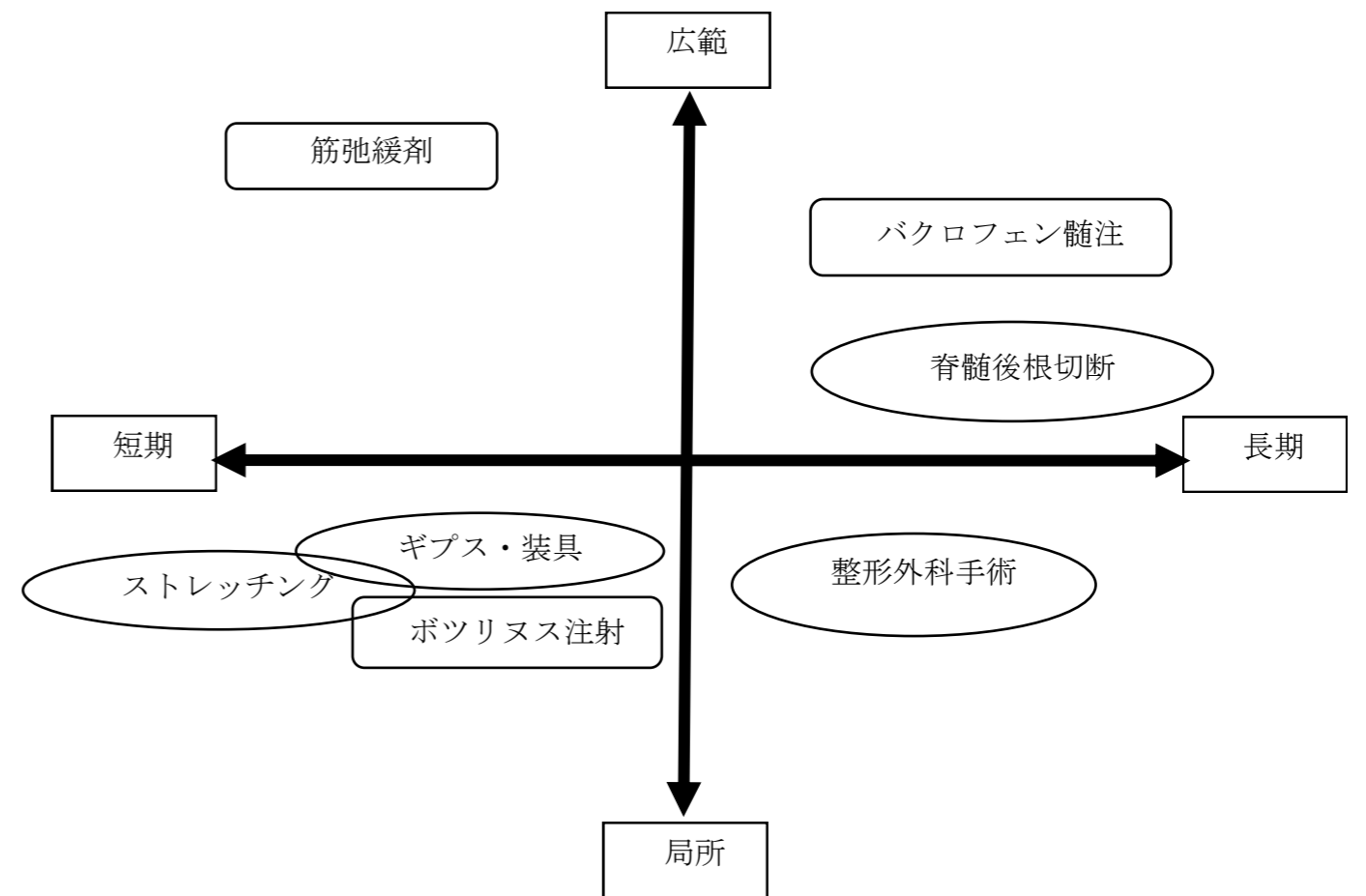


右の柎は手術が必要です。麻酔や手術の危険性、痛みは避けられませんので、よくよく吟味の上必要がある場合のみ行われることになります。

右下の整形外科手術では直接緊張筋や短縮筋の腱延長や切離が行われます。単に筋を緩めるだけでは無理で、ギプスや装具療法、数か月にわたるリハビリテーションなどが必要です。幼少期に行った場合、骨の伸びしろが大きいと再度筋腱の短縮をきたし再手術の可能性が残ります。日本では従来より多くの施設で行われてきました。我々も行っています。

右上の柎です。脊髄後根切断術は本邦では限られた施設でのみ行われている治療法であり、私たちは実施していません。これは痙縮を腱反射の亢進と捉え、腱反射の際に必須の筋伸長受容体からの信号を遮断する目的で行われます。電気刺激をしながら腰の脊髄神経を切ることになります。痙縮そのものに対する半永続的な効果が見込める優れた治療と考えられていますが、日本では経験豊富な施設が少なく普及に至っておりません。しかし選択肢の一つとして知っておくべきです。

最後に最近徐々に普及し始めているバクロフェン髄注療法です。これはポンプをお腹にいれ、カテーテルを介してバクロフェンという薬剤を継続的に脊髄に送り続けることで痙縮を抑える方法です。内服では脊髄に届きにくい薬を直接脊髄に届けるイメージです。手術侵襲も軽く、今川焼（他に思いつきません）のようなポンプ（金属製）を腹部に埋め込み通信装置を用いてコントロールします。生活リズムや緊張変動に合わせて速度を変えることができます。薬液を補充処置や、数年一度ポンプ入れ替えが必要となりますが、治療を受けた方を診察しますと、痙縮抑制効果が良く、全身の緊張が強い患者さんには非常に良いという印象でした。私たちは行っていませんが、外来で多くの方に勧めています。先日、紹介先の先生に「ブームが来てるでしょ」と言われてしまいましたが、今後も勧めていくつもりです。



# 障害児等療育支援事業

## 第一回 地域療育研修会を開催しました。

令和元年7月30日（火）に愛知県障害児等療育支援事業の一環で「第一回地域療育研修会」を開催しました。地域において障害児（者）の保育・療育・教育・保健・福祉等の支援に携わっている方々の参加が105名ありました。

安井副センター長より「①地域における青い鳥医療療育センターの役割」、「②発達障害の診断と支援の考え方」というテーマで講義を行いました。

昨年度の研修では、「自閉症・自閉症スペクトラム・アスペルガー・広汎性発達障害等いろいろな診断名があるが…よくわからない」「なんとなくわかるようで…わかからない」といった感想や質問がありました。

発達障害についての文献はたくさんありますが、医師から診断基準等についての話を聞く機会はあまりないと思います。はじめて参加された方も、何度目かの参加の方も研修中は熱心にメモを取られる姿がありました。講演では以下の内容を中心にお話をしました。

- 発達障害とは
- 発達障害の分類・診断基準
  - \* 歴史
  - \* 発達障害者支援法
  - \* DSM-5
  - DSM-IVからの変更点
  - \* ICD-10
  - WHO国際疾病分類と診断ガイドライン
- 知的障害と療育手帳
- 発達障害の頻度
  - \* 頻度
  - \* 特別支援学級在籍者数
  - \* 自閉症スペクトラムについて
  - \* ADHDについて
- 二次障害について
- 発達障害に対する支援の考え方
- 最近のトピックス
  - \* 発達障害と睡眠
  - \* ICTと睡眠障害

講演の中で「発達障害に対する支援の考え方について」の話が印象的でしたのでスライドを紹介いたします。

### 発達障害の診断とその理解の困難さ

- 発達障害の特性を持っていることだけでは障害ではない
- 特性を持つことによる生活上の困難さがあれば障害である
- 診断は診断基準によるが症状診断であり、定型発達との連続性があり、医師により異なることがある
- 年齢が進むと特徴がわかりにくくなることもある
- 定型に近づくことが治療ではなく、理解と支援のための診断である
- 定型の人たちと気持ちの理解や状況の理解が異なるために対人関係がスムーズにいかず、自己評価が低くなり、二次障害を引き起こすことがある→この二次障害を防ぐことが目的である

### 発達障害に対する支援の考え方

- (1) 子どもに対する発達支援
 

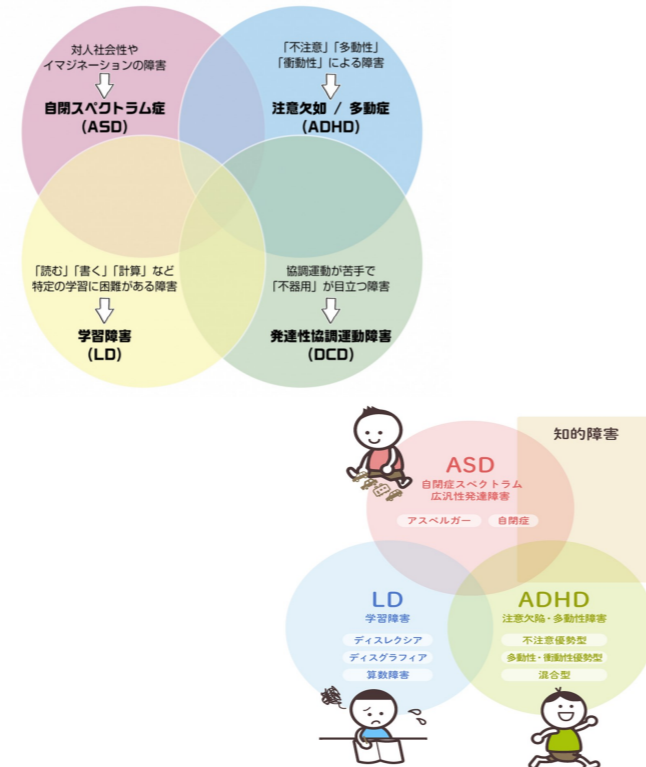
偏った発達の特徴を理解し、できないことをできるようにさせるのではなく、目標をスモールステップで本人ができそうなところに設定し、出来たことをほめ、困り感を減らす。
- (2) 保護者への支援
 

保護者の考えを理解し、の良いところをほめ、保護者の関わり方のよいところをほめる。

保護者の困っていることを共有し、子どもの困り感から発生する行動であることを説明し、子どもの発達段階と一緒に確認する。

その上で、できそうな目標を設定し、できたことを一緒に喜ぶようにする。

\* 親子関係を支援することが大切



# 地域療育研修会のお知らせ

(対象)  
海部圏域・尾張中部圏域で障害児（者）の療育等に携わっている職員  
(行政担当者・通園職員・保育士・保健師・幼稚園教諭・療育指導員・教育関係者 等)

- 第3回  
10月8日（火）  
平岩医師（小児科）  
高田言語聴覚士
- 第4回  
12月10日（火）  
小川医師（児童精神科）  
青木地域療育相談員
- 第5回  
2月7日（金）  
地域の実践報告とグループワーク

\* 第5回は市町村での発達支援体制の整備に中心的に関わっておられる職員（行政担当者・保健センター・親子通園職員等）が対象です。

- 親子通園職員向け  
インシデント研修（3回連続講座）  
10月 4日（金）  
11月15日（金）  
12月16日（月）

いずれの研修も時間は14時～16時半です。たくさんのご参加をお待ちしております。

質疑応答では

①睡眠が安定せず、日常生活や学校生活に影響がある児童が、医師から眠剤を処方されたがご家族の不安や心配が大きく服用につながっていない場合にどのような支援があるとよいか。

②診断の受け入れがなかなかできずに気持ちが揺れておられるご家族に対して、学校や保育園でどのようなお声掛けや対応をしたらよいかといった質問がありました。

また研修終了後にも当センターの外来利用者さんの相談支援の体制、小学校に入学してから発達が気になった場合にどのように対応したらよいかといった質問がありました。お子さんと親御さんの支援に丁寧にあたられているからこそ、支援者も悩まれたり、学びたいという気持ちになると思います。当センターの研修会は担当圏域（10市町村）を中心に、さまざまな職種の方が参加されますので、情報交換の場としても活用していただけたらと考えています。

研修会終了後には施設内の見学会を実施しました。外来診療部門やリハビリテーション科（PT・OT・ST）、医療型児童発達支援センター（どんぐり園）、医療型障害児入所施設、療養介護事業所をご案内しました。

「親御さんやお子さんから『青い鳥にいます』とよく聞くけれど…自分が来るのは初めてでした」という方も多くみえました。肢体不自由児や重症心身障害児・者の方々が生活されている施設であるということをはじめ知ったという方もみえました。支援の連携・協働には当センターのことを支援者のみなさんに知っていただくことも大切であると感じています。  
(地域療育担当)



研修会の様子

